

## ひかりの家共同作業所

ここは、病気回復途中の精神障がい者が、将来社会で活動できるように生活の訓練と作業能力を身に付けるための援助活動をしている施設です。

可茂地域家族会が主体となって運営しており、現在、15人がカミソリの組み立てなど軽作業を行って、作業能力の向上を目指しています。

精神障害者小規模作業所

### ひかりの家共同作業所

- 所在地 前平町 3 -30
- 設 置 可茂地区  
精神障害者家族会
- 運 営 同上
- 定 員 20 人
- 電話・FAX 27-3965



作業コーナー／市内の製菓会社から委託された菓子の袋詰めを行うことにより、就労能力を高め、社会復帰を目指します。単純作業ですが、こうした繰り返しの作業が、大きな自信につなが

り、就労能力を高め、社会復帰を目指しています

駅前通交差点を南へ歩くと、赤い地にグリーンの文字の看板が目につきます。ここは、「Green bird（グリーンバード）」。

精神障がい者の社会復帰の訓練の場として、平成14年4月に誕生しました。県内に2カ所しかない、精神障がい者の授産施設です。



施設長の鈴木尚武さんと  
スタッフ（精神保健福祉士）の皆さん

精神障害者小規模通所授産施設

### Green bird

- 所在地 太田町 1752-2  
太田パークビル 1 階
- 設 置 医療法人清仁会  
のぞみの丘ホスピタル
- 登録者数 19 人
- 電話・FAX 24-5567



ノーマライゼーションとは障がい者や高齢者など社会的に不利を受けやすい人々（弱者）が、社会の中でほかの人々と同様に生活し、活動することが社会の本来あるべき姿であるという考え方です。

ここで、「つづいた事業が始まりました。」

ここでの主な作業は、市内の製菓会社から委託された菓子箱の組み立てや菓子の箱詰めと、簡単な「三角くじ」を委託で作っています。

また、彼らが、ファミリーレストランやコンビニエンスストアで働くことを想定した社会復帰の訓練施設というコンセプトもあります。

店内は明るく温かい雰囲気を感じ、したカラーのオレンジ色が基調で、「販売コーナー」と「喫茶コーナー」を併設しており、商品の販売・レジ打ち・在庫管理などお客様と接して対人技能の向上を目指しています。

す。

こうした委託販売や作業による収益金はわずかですが、働く場も減ってきており、皆さんのご協力は大変助かります。

また、厳しい経済環境の中、市商工会議所や市内の製菓会社などのご協力も、大変心強いです。



喫茶コーナー／お客さんが飲まれたカップの片付け作業が中心となっています。セルフサービスのコーヒー代は、協力金として通所者に還元させていただきます

現在、20代から60代までの19人が、社会復帰の訓練に通っています。ここを開設した背景には、障がい者のノーマライゼーションがあります。つまり、障がい者にとっても日常の生活リズムをつくることは、何より大切です。

障がい者が家の中に引きこもるのではなく、われわれと同じように、朝起きて顔を洗い、朝食を取り、服を着替えて働きに出掛けることで「生活のリズム」をつくることで

きます。その繰り返しのにより、社会復帰ができるのですが、精神障がい者の場合、こうした訓練をするには、施設が必要でした。

また、福祉政策の方向転換もその背景にあります。かつては、彼らの場合、一度入院すると社会復帰はなかなか難しいとされる「隔離・収容政策」が中心でした。

しかし、身体障がい者と同じように地域に溶け込んで暮らすという仕組みが必要ではないかという



のぞみの丘  
ホスピタル  
地域支援部長  
白井潤一郎さん

ヒューマン

社会復帰しようとしている人々を  
温かい目で見守っていただきたいと思います



通りに面した入り口は、赤い地に「Green bird」の文字が印象的です